

## 初語の意味内容と表出時期について

新潟医療福祉大学 言語聴覚学科・吉岡豊  
秋田赤十字病院 リハビリテーション科・土佐香織

## 【背景】

言語発達の指標として初語は重要であり、健常児ではほぼ12カ月前後に見られることが一般に知られている。戸田<sup>1)</sup>は13カ月頃から初語が認められ、その語には「パパ、ママが多いことを明らかにしている。また、藤原ら<sup>2)</sup>は1歳代における初期表出語彙の品詞について検討し、1歳0か月～1歳6か月まではほとんどが名詞であることを示している。

言葉の遅れを感じさせる代表的な指標は初語であると思われる。しかし、初語に最初に気づくのは養育者であり、養育者が遅いと気づかなければ専門家への相談は成立しない。そこで本研究では、健常児の養育者を対象に初語に関するアンケート調査を行い、初語の実態と養育者が遅いと判断する時期について検討を行った。

## 【方法】

A県内の保育園に在籍する園児228名(男児112名、女児116名)の養育者を対象として、初語に関するアンケート調査を行った。

アンケート項目は性別、初語、初語の意味、初語の時期、始歩の時期、同胞の有無、両親の就業状況、初語が認められた時期について早いと感じたか遅いと感じたかなどであった。

## 【結果】

初語が認められた時期について示したのが図1である。この図から幼児の90%は15カ月までに初語が認められたが、その一方で初語が19カ月以降と遅いケースも認められた。初語表出の平均は $12.7 \pm 2.8$ カ月であり、男児では $13 \pm 3$ カ月、女児では $12.4 \pm 2.5$ カ月であった。

表1は初語がどのようなものであったかを見たものである。分類基準が意味や擬音語といったように統一されていないが、今回は直感的に把握しやすいことを重視して分類した。この表からは、家族に関するものが初語全体の50%であること、次いで食べ物に関する初語が多かった。その他、擬音語表現も10%ほど認められた。それらの表現が初語としてはどのような表現になっていたかを調べたところ、家族で最も多かったのは「ママ、マンマ(お母さん)」であり、次いで多かったのは「パパ(お父さん)」であった。食べ物では「マンマ」が最も多く、擬音語では動物の鳴き声(ワンワン、ブブーなど)が19語中18語であった。

養育者が初語表出時期についてどのように感じたかをまとめたものが表2である。この表から、子どもの言葉が遅いと養育者が思い始めるのは17カ月以降である傾向が見られる。

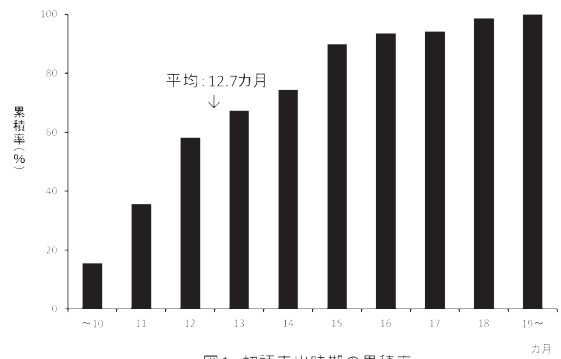


図1 初語表出時期の累積率

表1. 健常児にみられた初語の分類 (194語)

	家族	食べ物	擬音語	一般名詞	その他
数	97	56	19	14	8
割合	50%	28.9%	9.7%	7.2%	4.2%
内容	ママ、パパ	マンマ	ワンワン	はっぱ	

表2. 初語表出時期に対する養育者の感覚

月数	～10	11	12	13	14
遅い	3%	5%	13%	9%	14%
月数	15	16	17, 18	19～	
遅い	9%	38%	58%	0%	

## 【考察】

本研究の結果、健常児において初語は12カ月を中心として15カ月までに90%程度認められた。これは戸田<sup>1)</sup>と一致している。また、初語の多くは家族や食べ物に関する名詞が多く、これは生活上の親密度が関係しているものと思われる。

初語の表出時期が17カ月頃から言葉が遅いと感じ始めることが明らかとなり、家庭における観察の一つの指標となると思われる。その一方で、19カ月を過ぎても遅いと思わない場合があり、初語を中心としてことばの発達に関する啓発が必要と思われる。

## 【結論】

初語に関して検討した結果、以下の知見を得た。

- 1) 初語は生後15カ月までにはほぼ認められた。
- 2) 初語の意味はその多くが「お母さん、お父さん、食べ物」の名詞であった。
- 3) 初語が遅いと養育者が思い始めるのは17カ月頃からであった。

## 【文献】

- 1) 戸田須恵子(2005) 乳児の言語獲得と発達に関する研究. 北海道教育大学釧路校研究紀要, 37, 101-108.
- 2) 藤原雅子, 今給黎禎子, 安川千代ら(2005) 1歳代の言語発達—1歳0か月から1歳11か月の表出語彙—. 九州保健福祉大学研究紀要, 6, 235-241.